

..... 編集後記

◆ 今月号は特集「沖縄海域(その1)」原稿6編とその他5編です。特集は沖縄海域の島弧やリフトに関する報告です。その他は鉱物資源関連が2編、標本館関連1編、シリーズもの1編、それに書評1編です。現在、国内では金属盗難事件が続発していますが、その背景には、世界的な鉱物資源不足があります。それにしても、飽食日本での金属盗人のさもしさには概嘆せざるを得ません。

◆ 特集では、まず荒井晃作さん・西村 昭さんが本特集のねらいを述べています。日本の主要四島の周辺海域の地質調査は、過去30年を費やして完了しています。今後は沖縄海域の沿岸調査を重点的に取り組む予定です。そのために、今までの研究の総括と今後の課題を取りまとめました。中江 訓さんは沖縄島とその周辺諸島および八重山諸島について、先新第三系基盤岩類の研究史や層序区分の変遷を取りまとめました。また、今後の研究課題として、慶良間海裂での変位が重要であると指摘しています。兼子尚知さんは、琉球弧の陸域の新生界層序について取りまとめています。そして、今後の研究課題として、1) 沖縄トラフの形成と拡大時期、2) 南琉球弧500m島棚の形成時期、3) 最終氷期のサンゴ礁分布、を挙げています。小田啓邦さんは、GPSと古地磁気からみた沖縄トラフ・琉球弧のテクトニクスについて取りまとめています。井上卓彦さんは、東シナ海周辺海域の発達史に関わる調査・研究をレビューしています。荒井晃作さんほかは、北部琉球弧の高分解能音波探査の結果について報告するとともに、本手法を適用するに当たった課題と展望を示しています。その他、口絵で、町田栄章さんほかは琉球弧周辺のメタン湧

水・海底熱水の様子を紹介しています。興味深いブラックスモーカーや熱水チムニーなどが掲載されています。また、荒井晃作さんは、沖縄海域の調査に向けた調査予定測線図や第2白嶺丸の調査風景を紹介しています。

◆ 中山 健さんは、最近の鉱物資源価格の高騰の一つとして、活況を呈するチリのモリブデン生産の現状とそのチリ経済へのインパクトについて紹介しています。表紙と口絵にも、チリのポーフィリー銅鉱床副産物であるモリブデンに関する写真が掲載されていますので、併せてご覧下さい。

◆ 清水 徹さんは、日本が抱える鉱物資源問題を憂慮して、鉱物資源の研究者という立場から、研究環境作りの重要性と国際協力の在り方について提言しています。

◆ 清水 徹さんほかは、地質標本館の第2展示室「生活と鉱物資源」コーナーの電飾パネルを更新した内容について報告しています。

◆ 吉川俊之さんは、シリーズ地質調査のパートナー(5)としてハンマーを取り上げています。地質調査にとって最も基本となる調査用具です。それ故、個々人のハンマーに対する思い入れは深いものがあります。吉川さんは自分の体験を通して、ハンマーの特徴を紹介しています。

◆ 須藤定久さんは、「天然ゼオライト-利用にあたっての品質評価基準-」の書評を寄稿しています。

◆ 風薫る五月になりました。フィールド・シーズンの到来です。6月号は特集「沖縄海域(その2)」とその他の個別原稿を予定しています。読者の皆様からのご意見を、お待ちしております。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・

光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース

第633号 2007年 5月号

定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費

2007年5月1日 発行

編集

産業技術総合研究所

発行人

株式会社 実業公報社

代表者 林 光生

発行所

株式会社 実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073

Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952

http://www.jitsugyo-koho.co.jp

E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp

振替口座 00110-6-32466

麹町局私書箱第21号



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年 (IYPE) に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2007 Geological Survey of Japan